

演 題：豚の肝臓（2 症例）

機 関 名：豊橋市食肉衛生検査所

氏 名：西谷 小百合

動 物 名：豚 品種：〈症例 1〉雑種 〈症例 2〉デュロック 性別：去勢

年齢：6 ヶ月齢

病 歴：不明

生体所見：〈症例 1〉削瘦及び後肢跛行 〈症例 2〉犬座姿勢

内臓所見：〈症例 1〉肝臓は軽度に腫大し、淡褐色を呈していた。断面は小葉間結合組織部が白色に肥厚し、小葉構造は明瞭であった。肝リンパ節は鶏卵大に腫大し、断面は膨隆し乳白色髓様を呈していた。他臓器では、脾臓、腎臓、膀胱及び肺に腫瘍の浸潤を認め、各付属リンパ節及び躯幹リンパ節は腫大していた。

〈症例 2〉肝臓表面及び実質に米粒大から空豆大の乳白色結節が多発していた。結節は表面より隆起し、肝実質との境界は比較的明瞭であった。断面は膨隆し、一部肝小葉が島状に残存していた。他臓器及びリンパ節等には著変を認めなかった。

組織所見：両症例ともに、小葉間結合組織を中心に腫瘍細胞が浸潤増殖し、肝小葉は圧迫萎縮していた。拡張した類洞への侵入も認めた。腫瘍細胞の浸潤は、症例 1 は全葉にわたり認めたが、症例 2 では結節部以外では認めなかった。腫瘍細胞は、症例 1 は大型で淡明な核、症例 2 では中型でクロマチンに富む核を有し、いずれも細胞質に乏しく大小不同で円形から多型性を示し、核分裂像を高頻度に認めた。

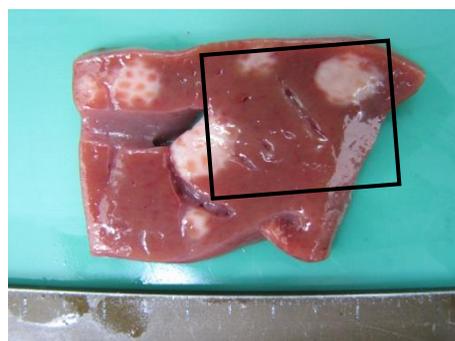
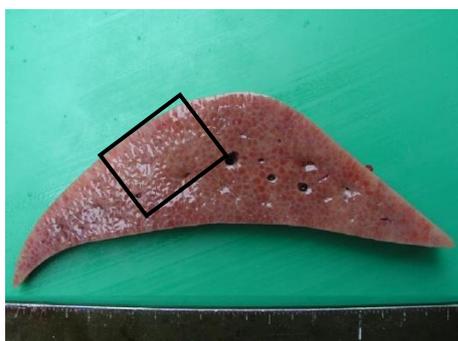
血液所見：症例 1、2 ともに血液中に大型で幼若なリンパ球様腫瘍細胞を認めた。

固定方法：10%中性緩衝ホルマリン

切り出し部位：(図示)

症例 1

症例 2



行政処分：全部廃棄

組織診断名：悪性リンパ腫

疾病診断名：リンパ性白血病